

鵜沼自治連は鵜沼地区の町内会・自治会のつながりです 防災を核として地域生活の向上を図っています

防災特集号

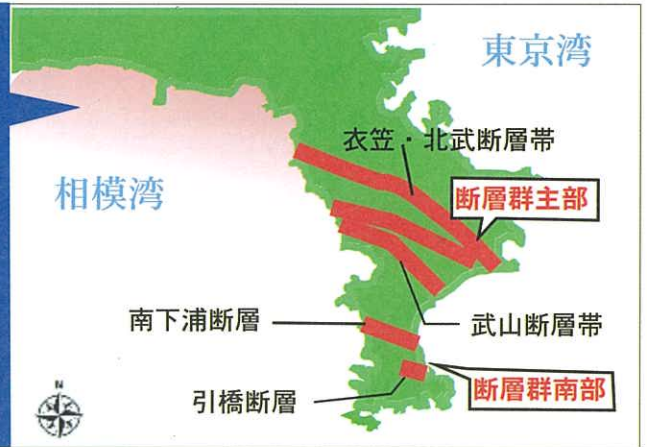
相模湾にも活断層 逗子、鎌倉、江の島、茅ヶ崎沖に確認

三浦半島から延長を確認

2023年度から25年度にかけて、東大地震研究所と防災科学研究所、県温泉地学研究所が文部科学省の重点調査観測プロジェクトで相模湾内のボーリング調査を実施し、逗子沖や鎌倉沖、江の島沖、茅ヶ崎沖の海底に活断層があることが判明した。これにより内陸の活断層と同様に過去数千年間に地震を繰り返し発生させ、ズレの方向も陸域と同じであることも判明した。海底の活断層が活動すると津波を伴う恐れがあり、従来は横須賀市近郊が中心だった強い揺れが北西側に拡大する。

武山断層帯と逗子沖、茅ヶ崎沖の両断層が連動すると強い揺れは湘南地域にも発生し、地震規模が大きくなるために三浦半島内の活断層周辺でも揺れが強まる可能性があるそうです。また、同断層群主部は武山断層帯と衣笠・北武断層帯で構成され、これまで別々に地震発生率を算出してきたが今回の調査で両断層帯が地下でつながっている事も判明した。これにより一体の活断層として発生確率の見直しも検討することになっ

三浦半島断層群延長を確認

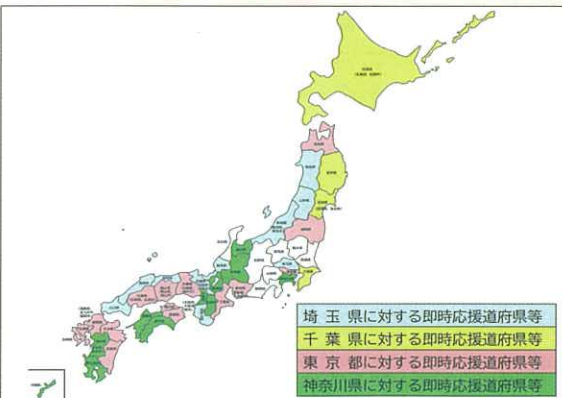


た。

武山断層帯と衣笠・北武断層帯が地下のより深い所でフィリピン海プレートに収れんする可能性も判明しており、同断層群が相模トラフの地震と連動する可能性も検討する必要があるとしている。

首都直下型地震が断層群主部で発生した場合は、津波の発生確率は非常に高まります。鵜沼地区として早急な対策が望まれます。

首都直下型地震発生！4都県に36道府県職員派遣される



首都直下型地震が発生した際、大きな被害が想定される東京圏に応援職員を派遣する自治体の割り当て案を総務省が作成しました。東京、埼玉、千葉、神奈川の4都県に被災の可能性のある関東近県などを除いた36の道府県と政令指定都市から応援に来てくれます。

埼玉	千葉	東京	神奈川
秋田県、山形県、新潟県、福井県、京都府、鳥取県、島根県、山口県、新潟市、京都市、和歌山県	北海道、岩手県、宮城県、札幌市、仙台市	青森県、福島県、愛知県、三重県、兵庫県、岡山県、広島県、徳島県、香川県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、名古屋市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市	富山県、岐阜県、滋賀県、大阪府、奈良県、愛媛県、高知県、熊本県、沖縄県、鹿児島県、堺市、大阪市、熊本市

第30回震災対策技術展にて視察研修

2026年2月5日（木）にパシフィコ横浜で開催されている、震災対策技術展へ視察に行きました。本技術展は最新の防災技術や製品を通して、災害に強い社会の構築を目指すことを目的に開催され、今年で30回目を迎え、150の企業や団体が出展していました。今回の視察研修会は、防災統括部と事業部との共同開催となり、総勢31名の方が参加されました。

各地での大地震発生危険性が指摘され、防災、減災の必要性が高まるなかでの視察研修会となりました。3年連続の同じイベントの視察となりましたが、毎年、防災、減災の技術、製品、サービスの向上は目まぐるしく進化しており、特にAIを活用したことにより大きな変化を感じるとともに、



参加者の皆さん方

第30回
震災対策技術展
【自然災害対策技術展】
Earthquake Technology Expo / Natural Disaster Recovery Technology Expo 2026
2026年2月5日(木)・6日(金)
10:00～17:00 パシフィコ横浜 Dホール

首都直下地震、台風・ゲリラ豪雨等の災害対策を「防災×テクノロジー」で推進する

同時開催 ● 第17回「補助技術展」 ● 第6回「防災食品展」 ● ハザードマップ配布コーナー ● 出展者資料コーナー

災害対策に関わるセミナーからも有益な情報を得ることが出来ました。

今回は女性の参加者が多く、防災に対する参画意識の変化も感じることが出来、昨今の津波避難警報の発令や南海トラフ地震、首都直下型地震の発生率の高まり、また温暖化による豪雨災害、山林火災の続発など危機感が高まっている証だと言えます。

研修会終了後には中華街で昼食を兼ねた意見交換会及び懇親会を開催いたしました。活発な意見交換と共に参加者同士の親睦も深めることが出来ました。

参加者の皆さん、大変お疲れ様でした。

鵠中防災会 避難訓練を実施

2026年1月31日（土）に午前9時に大地震が発生したと想定し、鵠沼中学校を避難場所とする自治会町内会の避難訓練を実施いたしました。災害発生時にはまず救助活動から始まり、安否確認、被災状況把握等に相当の時間を要しますが、避難訓練ということもあり、全て実施したと想定してK委員（駆けつけ委員）を中心に避難が始まりました。K委員は駆けつけた従事職員と共に受付を準備し、避難者の受付を行いました。受付終了後、体育館に示されている各町内会の避難スペースを確認いたしました。その後、従事職員・消防分団・警察の紹介があり、市民センター職員よりファーストミッションボッ

クスの説明がありました。

アンケートでは、訓練の目的が何なのか、待ち時間が長い、集合場所の案内がない、受付票が小さい、拡声器が聞こえにくい等様々な意見を頂きましたが、今回は久しぶりの訓練であり、次回にはいただいた意見を基に更に踏み込んだ訓練内容へ見直し、検討を行うとのことでした。



入場受付風景

※ファーストミッションボックスとは

災害時に避難者が避難所の開設・運営を行うための手順書と資材がセットになった箱です。

大規模災害発生時、市職員が不在でも、避難所で住民が協力して初期対応を行うことができます。

ファーストミッションボックスには、主に以下の要素が含まれています。

●**手順書**：誰でも簡単に理解できるよう、大きな文字や図が用いられ、やるべきことが順番に記

されています。経験や知識がなくても、箱を開けて手順書を順番に読めば行動できます。

●**資機材**：初動に必要な最低限の資材が収納されています。

●**役割分担**：3人からミッションを開始し、仮の施設長を決めて業務班を作り、最大17人で避難所を開設する仕組みが作られています。

●**標準化**：初動時の迷いや担当者への依存を防ぎ、判断と行動を標準化できます。

津波避難対象地域町内会自治会 会長・防災部長が 津波避難に係るワークショップ開催

2026年1月24日（土）午後1時30分より鶴沼市民センターホールにて、津波避難訓練対象25町内会自治会の会長及び防災部長の皆様にお集まり頂き、津波の様々な想定に基づき避難行動や平時の備えを議論し、地域課題を抽出する事を目的に、津波避難に係るワークショップを開催いたしました。

各テーマに関する主な意見

テーマ① 津波浸水想定区域外の津波避難ビル協定解除について

【賛成】 区域外住民の誤った避難による混乱を防ぐため解除すべき。ただし、地域住民に対し丁寧な説明と周知が必要。

【反対】 想定外の事態や区域内避難所の定員超過に備え、予備の避難所として維持すべき。市民の安心感や選択肢の確保に繋がる。

【要望】 指定経緯や解除理由の十分な説明と、ハザードマップへの不安感を持つ住民への配慮を求める声があった。

テーマ② 平常時の対応について各家庭で以下の備えが重要であるとの意見で一致した

【備蓄】 飲料水、食料（ローリングストック）、簡易トイレ等の備蓄。

【事前確認】 ハザードマップの確認と、避難場所や連絡方法など家庭内ルールの共有。

【安全対策】 家具の転倒防止や感震ブレーカーの設置。

【意識】 パニック時を想定した、日頃からの準備とシュミレーションが不可欠。

テーマ③ 遠地津波発生時（想定：津波高3m、到達70分後）の行動

時間的猶予があるため、慌てて避難せず、テレビやラジオ等で正確な情報収集を最優先する。

原則として在宅避難とし、自宅の2階やマンション上階などへの垂直避難を基本とする意見が多数を占めた。

テーマ④ 大地震・大津波発生時（津波高8.8m、到達8分後）の行動

【水平避難】 「ためらわずに即避難」を原則とし、指定避難所や高台へ迅速に移動する。

【垂直避難】 一方で、到達時間8分では水平避難は困難と判断し、自宅等での垂直避難を選択するという意見も多数見られた。パニックで動けない可能性がある等、不安の声もあった。

まとめと今後の課題

今回の議論を通じ、津波の切迫度に応じた具体的な避難行動が検討された。

今後の課題として以下の2点が浮き彫りとなった。

1、津波避難ビル協定解除に関する丁寧な情報提供と合意形成。

2、切迫した状況下における垂直避難の有効性検証と、多様な避難方法の周知の強化。



津波避難について 地域の皆様へ

～混乱を防ぎ、命を守るために～

掲載のきっかけ

先日のカムチャッカ地震に伴う津波警報発令時、藤沢市では幸いにも被害はありませんでしたが、津波避難ビルおよび避難所で大きな混乱が生じました。

- 食事や飲料水の提供を求める声
- 「暑いので屋内に入れてほしい」といった要望
- 車両避難による周辺道路の大渋滞

対応にあたった学校・施設関係者にも大きな負担がかかりました。これを踏まえ、地域として正しい理解を共有したいと考えています。

津波避難は命を守る 「一時的な避難」です

- ◎ 食料・飲料水の提供はありません
- ◎ 物資の配布はありません
- ◎ 原則として長時間滞在する場所ではありません

地域としてお願いしたいこと

- 自宅周辺の浸水想定区域を確認する
- 最寄りの避難ビル・高台を確認する
- 食料と飲用水は最低3日分の備蓄を用意する
- 避難は徒歩を基本とする
- 冷静な行動を心がける

最後に

災害時、混乱を防ぎ命を守るためには

「正しい理解」と「一人ひとりの備え」が何より重要です。

地域で支え合いながら、
安全な避難行動を心がけましょう